

中教審「高大接続特別部会」 <<速報>>

センター試験など、高大接続に係る 大学入試の在り方等の議論スタート！

高校での新たな「学習到達度テストの必要性」意見多し。
25年秋を目途に答申の予定

旺文社 教育情報センター 24年10月2日

- 文科省は24年8月末の中教審「総会」で、「大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について」を諮問した。

諮問では、例えば次のような点に留意した審議を求めている。

- (1) センター試験の在り方を含めた大学入学者選抜の改善方策について
- (2) 各学校段階での教育を通じこれからの時代に必要とされる力を育む観点から、大学入学者選抜と高等学校教育の質保証、大学教育の質的転換を一体的に行うための基本的な方向性、高等学校と大学との連携強化のための方策について

- 中教審では当諮問を受け、同「総会」において「高大接続特別部会」を設置。
当特別部会の委員は、高等学校・大学関係者、教育委員会・全国高等学校PTA連合会・企業関係者ら19名で、部会長は安西祐一郎・中教審大学分科会会長(日本学術振興会理事長)。

- 24年9月28日に当部会の初会合が開かれ、事務局(文科省)から次のような「審議に当たった際の主な視点等について(案)」が提示された。

1. 高等学校から大学までを通じて育成すべき力と育成するための方策

- * これからの時代に求められる“力”(グローバル化に対応し活力ある社会づくりに貢献することができる力。教養・倫理観、意欲・態度、判断力・行動力、協調性・リーダーシップ、公共心・実践力等)
- * “その力”を育成するための方策と教育の質保証の在り方
- * 思考力、表現力、学びへの意欲などの把握・評価の在り方

2. 大学入学者選抜の在り方

- * 高等学校教育と大学教育の接点として大学入学者選抜が果たすべき機能
- * 入試方法の多様化や評価尺度の多元化、受験機会の複数化の現状と課題
- * 上記1.の“力”を育成する観点からの大学入学者選抜の在り方
- * センター試験の課題と今後の在り方

3. 高等学校教育と大学教育の接続・連携の在り方

* 高等学校教育の質保証(注. 1)、大学入学者選抜の改善、大学教育の質的転換(注. 2)の一体的推進

* 高等学校教育と大学教育との円滑な接続、それぞれの質の向上を図るための連携方策

(注. 1) : 高等学校教育における生徒の学力等の修得状況を多面的・客観的に把握するための様々な仕組みの在り方

(注. 2) : 大学教育におけるアセスメント・テストや学修行動調査等、学修成果の把握、評価、可視化のための様々な仕組みの在り方

○ 初開催となった9月28日の会合では、出席した委員から自由討議の形で次のような意見が出された。

- ・ 高校での学習到達度を測る共通テストの導入。
- ・ 先に提言されている「高大接続テスト(仮称)」の必要性。
- ・ センター試験の理科と地歴・公民(社会科)の科目別出題をそれぞれ“大括り”(科目の再編・統合)にすべき。
- ・ 高大接続における、大学側主導の入試制度と、高校側主導の学力把握システムとは区別して議論すべきではないか。
- ・ 高大接続に係る学力把握については、高校側、大学側とは別の第三者(企業側など)による客観的で共通な評価基準も必要ではないか。等々。

○ 今後、具体的な検討、議論に入り、25年秋頃までには答申の予定という。